

平成30年2月20日（火）

○議長（岡 弘悟君）順番10、11番 田中君。

〔11番（田中博晃君）登壇〕

○11番（田中博晃君）皆さん、こんにちは。ちょっと昼の眠たくなってくる時間なんですけれども、一般質問をしたいと思いますが、その前に一言。私たち議員はこの一般質問を通じて、市民の要望であったり、こないやったら橋本市がもっとよくなるのと違うかなとか、ときには突拍子もないことを言うて、この一般質問に意味があるんかと思われるときもあるかもしれないんですけども、やっぱり議員は一生懸命やっています。その中で、やはり一つ一つすり合わせとかをやっていく中で、市も答弁とかもきっちり返してほしいんです。

例えば、今回、私は2項目とも経済部の質問ですけども、答弁が1mmも載っていないから修正してほしいと要望も出しました。私がこういうことをしゃべりたいんやというのも答弁書に載ってくることもありました。こういうのはやめていただきたい。

それと、今回だけではないですけども、過去にも何度も再質を聞かれて、こういうことを考えていますと言ったら、それが当日、答弁で返ってきている。そんな話は聞いてへんど、これ、皆さんあると思うんですよ。やっぱり私らも一生懸命やっていますので、その辺だけは何とかしてほしい。やってほしくない。これは強く要望して、通告に従い、一般質問を行います。

今回は2項目です。

まず、一項目め。進出企業の採用予定公表についてです。

企業誘致による進出企業により地元採用が多くなることは、本市にとっても非常にあり

がたいことである。昨年は、地元高校で就職説明会が開催されたことにより、高校生からも、こんな企業が地元にあったんや、就職の選択肢が増えたとの話を聞き、進出企業の認知が進んできたことは、今後の企業誘致にプラスに働く面が多いと考える。

また、一部企業では採用人数が多く、結果、採用枠が埋まらなかったとの話も聞く。その一つに、本市出身で県外の学校に通う学生には、採用情報がほとんど届いていない現状があると考える。企業誘致の目的に市内での雇用確保だけでなく、進学等により市外に出た本市出身者に、本市に戻ってきて就職してほしい。市外、県外から就職をきっかけとして本市に移住してほしいという思いもあったと認識している。よって、若者の雇用確保や移住・定住の一助になればと考え、以下の質問を行う。

- 1、企業誘致の目的を簡潔に。
- 2、県外、市外から進出企業への通勤者に対する移住・定住対策について。
- 3、進出企業の採用から見た移住・定住対策について。
- 4、企業合同説明会開催について。
- 5、採用情報のホームページ等掲載について。

次に、二つ目です。本市にしかできない観光政策。

高野山麓ツーリズムビューローが設立され、民間の地域活性化による個性的な着地型観光に期待が集まると同時に、本市がどのようにかかわればより効果が現れるか考えることが多い。こと、市内に目を移すと、さまざまな集客施設の活用や都会に一番近い田舎の本領を發揮できそうな夜間の暗さに、私個人は注

目している。

また、SNSでの観光情報発信に力を入れるとの市長の話聞いたこともあり、本市の情報発信方法に興味を持つと同時に、クラウドファンディングにも生かせるのではと考える。民間と行政が一体化し情報を共有することで、本市にしかできない観光政策があると考え、過去の質問の進捗を含め、以下について問う。

1、さらなる集客アップのための集客施設連携マップ作成について。

2、市民より本市PR動画を集めてみては。

3、市民より本市PR写真を集めてみては。

4、星空の見やすさランキングについて。

以上、明確な答弁をお願いします。

○議長（岡 弘悟君）11番 田中君の質問項目1、進出企業の採用予定公表に対する答弁を求めます。

経済推進部長。

〔経済推進部長（笠原英治君）登壇〕

○経済推進部長（笠原英治君）進出企業の採用予定公表についてお答えします。

まず、本市の企業誘致は、若者の働く場所を確保し、本市に定住していただくとともに、ほかの地域から移住していただくことを主な目的として進めています。

次に、進出企業の通勤者及び採用者の現状と、これらの方への移住定住推進施策についてですが、現在、操業中の誘致企業28社では、京奈和自動車等のインフラ整備により本市へのアクセスが向上し、市外からの通勤者が約320名となっています。また、既存の工場からの配置転換により本市へ転入された方は約40名となっています。進出企業の採用に関しては、新工場の操業に合わせて問題なく稼働できるよう、事前に従業員を採用し、既存の工場研修を行い、新工場へ配置する傾向があります。今後、操業企業の増加に伴い、通勤

者の中で転入を希望する方も増加すると予測され、進出企業に対し、転入夫婦住宅取得補助金やわかやま空き家バンク制度などの情報提供を行い、定住移住促進につなげていきたいと考えています。

次に、企業合同説明会については、昨年7月に県立紀北工業高等学校の就職を希望する3年生約120名を対象に、誘致企業12社による合同企業説明会を開催しました。その結果、参加企業6社のうち12名の内定をいただいていると聞いています。来年度はより多くの方の就職を願い、和歌山県と協力して説明会対象の高等学校の範囲を拡大して開催する方向で調整しています。

最後に、採用情報のホームページ等掲載について、現在、シティセールス推進課において新卒者向けの市内企業の採用情報を掲載しています。また、和歌山県のUI和歌山就職ガイドに情報を掲載するなどして、UIターン希望者への情報提供についても取り組んでいます。

今後は、誘致企業を含む市内企業の人手不足が大きな課題になると予測されることから、ホームページ等の活用はもちろん、積極的に広く市内企業の採用予定情報を周知する手段を講じてまいりたいと考えています。

○議長（岡 弘悟君）11番 田中君、再質問ありますか。

11番 田中君。

○11番（田中博晃君）答弁ありがとうございます。今、質問に対してはほぼほぼやってくれるということなので、余計なことを聞いたらあかんのかなとも思いながら、ちょっと聞いてみたいんですけどね。今、橋本市は移住定住ということで、すごい力を入れてやってくれています。一方、企業誘致でも同じことをできると思うんですよ。今、答弁でも触れられていたんですけども、約40名、こっち

へ来た人がおって、それは40名なのか、もしかしたら家族もついてきているところもあるかもしれないんですけども、やっぱりわかりにくいという話も聞くんです。今、橋本市がどういう政策を持っているのかなとか。もちろん新婚世帯の住宅補助みたいなことをやってくれというんじゃないで、もっとわかってもらえたら、今、通勤してくれている人も、もしかしたら橋本市へ住んでくれるかもしれないという部分で、もうちょっと積極的に市の情報を発信していったらどうかと思うんですけども、いかがですか。

○議長（岡 弘悟君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）ここ最近、比較的大きな企業との調印式が行われておりますし、多分、今年、さらに大きな会社とも調印ができるものと思います。そういったところは非常に従業員も多いです。そういったところから、現在は進出企業へ、市の情報として広報紙なんかを送付しておるわけなんですけど、今後はそれにあわせて、移住のガイドブックなどの移住情報を定期的に提供させていただいたり、市のシティセールス推進課で移住相談窓口を配置しておりますので、そういったところを利用して、進出企業の従業員へも移住定住を促していきたいというふうに考えております。

○議長（岡 弘悟君）11番 田中君。

○11番（田中博晃君）よろしくお願ひします。ほんまに新婚のほうもなかなか集まりにくいと思うし、ただ、ほんまにこっちへ来てくれる人がおるんやったら、そこを狙うのも一つなんかなと思いますので、よろしくお願ひいたします。

それと、次に、説明会、県と合同開催ということなんですけれども、まだ時期とか場所というのも県との協議もあるので決まっていなかつたと思うんですけども、だいたいの時

期と場所。橋本市内で考えているよとか、できればこの辺でしたいんやという、そういうようなほうに持っていきそうですかね。

○議長（岡 弘悟君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）進出企業との具体的な合同就職説明会の日程については決まっておらんわけなんですけど、伊都管内の高校の進路指導の担当の先生といろいろお話をさせていただいたところ、企業説明会に生徒たちが参加していただけるという、そういう方向性を回答としていただいております。

今後、時期とか場所については詰めていきたいというふうに考えております。予定では、昨年7月に壇上で答弁したとおりに行つたんですけど、今年も7月ぐらいをめどに考えております。

以上です。

○議長（岡 弘悟君）11番 田中君。

○11番（田中博晃君）よろしくお願ひします。あと、市でも、先ほど部長が答弁いただいた中でも、今年もまた大きな企業が来るかもしれないよと、一部新聞とかで先に出たこともあつたかと思うんですけど、将来、橋本市だけでひよつとしたら、採用枠埋まれへん。去年も一部埋まれへんかつたとか聞いていますけれども、埋まれへんなる。でも、もともと企業誘致のときには、豊富な人材であつたり、土地の安さであつたり、あと、交通の便がええよというようなことやつたんですけども、そのあたりを考えて県内外を問わず、今、橋本市、伊都、去年は紀北やつたかな。本年度は橋本市、伊都、それ以外の近隣、もしかしたら県をまたぐかもしれない、もしかしたら和歌山市はもっと南のほうへ行くかもしれないんですけども、そういうところも、積極的にやっていかれたほうがいいのかと思うんですけども、いかがですか。

○議長（岡 弘悟君）経済推進部長。

○**経済推進部長（笠原英治君）** 人手不足につきましては、進出企業であったり、既存の企業にとっても、これから大きな深刻な課題になってこようかと思っております。進出される企業のお話を聞くと、人手不足ということは地方に限ってはないでしょうから、こちらへ来ましたと、そういうちょっと厳しいお話もいただいたりしておるわけなんです。市長の指示もありまして、伊都管内の高校だけではなくして、和歌山市や紀北方面の高校に出向いて行って、進路指導の先生方と積極的に調整しながら、こちらのほうへの雇用を求めていきたいというふうに考えております。

県外の近隣高校についても、これから誘致状況等の説明が必要になってこようかと思っておりますので、そういったところについても今後取り組みたいと考えております。

○**議長（岡 弘悟君）** 11番 田中君。

○**11番（田中博晃君）** 特に、奈良県とか、大阪でも南部やったらほんまに近いんで、そういうところも積極的に情報発信さえしていただけたら、もしかしたらこっちへ来てくれる人も増えるかもしれないので、よろしく願いいたします。

それと、もう一個の問題が、今のともちょっとかぶるんですけども、どうしてもこの辺で住んでいる子というのかな、高校を卒業して、大学であったり、専門学校とか、高専とかって行く子もいてるんですけども、その子たちに情報がほとんど届かないんです。確かに県の冊子もありましたけど、あれはタイムラグが結構あるので、ちょっとすぐ使えるものでもありませんし、今、市が一部のっけていただいています、これは進出企業だけじゃなくて既存の企業ものっけてくれていますけれども、そこというのは、これ、いつの情報かすごいわかりにくいものですよね。やっぱりその辺を考えて、来年度というんか、

次の就職が始まるころに、やはり市のホームページを積極的に利用して、情報発信、橋本市はいろんな意味で情報発信が弱いと思うんですけども、その情報発信をやっていていただきたいんですけども、いかがでしょうか。

○**議長（岡 弘悟君）** 経済推進部長。

○**経済推進部長（笠原英治君）** 今、議員のほうからおただしがありましたように、確かに、市のホームページ上で、進出企業も含めた就職情報というのを載せてはおるんですが、確かに、その更新も定期的に行っておるものでもございません。そういったところから、きっちりこれからは定期的に企業の就職状況、特に進出企業の情報というのを、しっかりこちらのほうで調査して、掲載していけるように、秘書広報課なんかと調整していきたいと思っております。

なお、今、実は進出企業の採用情報、これは31年度の採用状況について調査させていただいておるわけなんです。この部分については、できるだけ3月中に掲載していきたいというふうに、これは当然、秘書広報課と調整しながら行っていきたいというふうに考えております。

○**議長（岡 弘悟君）** 11番 田中君。

○**11番（田中博晃君）** 大学とか、今どんどん早くなっていますので、実際、大学3年生の子はかなり動かれています。ええかどうかちょっとわからんのやけども、動かれていますので、できるだけ早い段階で情報を出してあげて、もしかしたら、やっぱりこっちへ帰ってきて就職したいんやと、大学とかはよそへ行ったけれども橋本市へ帰ってきたいんやという子もいると思うんで、その子たちの目に届くようにして行ってほしいので、今、3月上旬にはということもいただきましたので、よろしく願いいたします。

また、次の問題がホームページでの公表なんですけれども、どうしても、うちのホームページ、新着情報とかも、どんどん下がっていってしまうという難点があります。市も政策で、やっぱり企業誘致というのを進めてきた上で、採用の場所、採用情報も私は進めていくべきやと、採用情報をのつけるというのかな、わかりやすく載せるという部分は必要だと思うんです。

そこで、提案。これは厳しい答えが返ってくると思うんですけども、例えば、3月から7月、8月ぐらいまではここにバナーを張って、そこに新着の、今の採用情報が載っているとかね。そういうことをホームページのほうでできれへんかなと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（岡 弘悟君）総合政策部長。

○総合政策部長（上田力也君）地方でもこれだけ雇用不足という、こういう状況になっていると。これから今後についても、こういう傾向というのは続くものかなと。その一方で、政策で企業誘致をしていくということで、私どももできるだけホームページ等を通して、採用情報というのを伝えていく必要があるのかなというふうに思っております。

それと、今、バナーの提案をいただいたわけなんですけども、今現在、橋本市のトップページが割と混雑してしまっていて、新たなバナーをつくるというのは逆にわかりにくいという部分もございますので、やっぱり大きな政策ということもありまして、ホームページのトップにスライドバナーというのがあるんですけども、これを期間限定とはなるんですけど、トップページの一番上のでっかいスライドバナーに、その情報を張りつけていけるのかなというふうに考えております。

○議長（岡 弘悟君）11番 田中君。

○11番（田中博晃君）思ったより良かったの

で良かった。もうちょっと難しいことを言われるんかなと思って、詰めらんなんかなと思ったんですけども、スライドの、今ちょうどインターネット政策モニターやとか、上に出ているところだと思いますので、もちろん期間限定は仕方ないと思いますが、ぜひ、目に触れるきっかけをいっぱいつくっていただければと思います。

一つ目、終わります。

○議長（岡 弘悟君）次に、質問項目2、本市にしかできない観光政策に対する答弁を求めます。

経済推進部長。

〔経済推進部長（笠原英治君）登壇〕

○経済推進部長（笠原英治君）本市にしかできない観光施策についてお答えします。

まず、一点目の集客施設の連携マップについては、以前にも一般質問をいただいております。高野山麓地域を訪れる観光客に本市の魅力を知っていただくため、本年度、高野山麓アクセスバスの運行に合わせて、「大正浪漫薫るまち高野口」と題してキャンペーンを実施し、高野口町の観光施設などのグルメマップとまち歩きマップをセットにしたパンフレットを作成しました。

今後、高野山麓の広域エリアで観光客のニーズに合った内容により、集客施設の連携マップを作成したいと考えています。

次に、二点目と三点目の市民より本市PR動画や写真を集めてはとのおたただしですが、以前の一般質問で議員から提案いただいた取り組みは行っていないんですが、橋本市の魅力をPRするため、秘書広報課では市民の方との協働で、紙芝居動画などの配信をしています。

また、シティセールス推進課では、平成29年度より橋本市の公式のインスタグラムを開始し、ハッシュタグキャンペーンを実施する

などにより周知するとともに、市民の方からの投稿を呼びかけ、広く橋本市をPRしています。これらの取り組みにより、市が主体となり市民の皆さまと協働で市の魅力を発信しているところです。しかしながら、まだまだ認知度は低いという認識があり、より多くの市民の方が参画できるような仕組みを考えていきます。

次に、四点目の星空の見やすさランキングについてですが、長野県阿智村が平成18年度に1位を獲得し、日本一星がきれいな村として観光客の誘客に成功しています。現在、環境省では、星空観察の推進手法に関する検討会が開催され、観察手法や客観的評価の検討をされているようです。本市においても、市民の皆さまに参加を呼びかけるとともに、星を観光資源とした地域の活性化方法を検討していきます。

○議長（岡 弘悟君）11番 田中君、再質問ありますか。

11番 田中君。

○11番（田中博晃君）1個目のマップのやつなんですけど、これ、私、27年の3月に一般質問をしました。そのとき、部長のほうから、集客施設からそのほかの観光施設までの距離であったり、所要時間であったり、真ん中に、例えば、地場産業振興センターやったらそれでもいいんですけども、そこから国城広場まで何km何分とか、簡単なやつでいいんですけども、そういうのをつくってはどうかという提案をしたところ、お客さま目線で立った利便性の高いマップを作成するという事は各施設を周遊していただけますし、非常に有効であると思います。この件については積極的に対応していきたいと思います。で、3年たちました。

時間がかかったのはしゃあないと思うんですけども、私たちもやっぱり旅行とかへ行

って、例えば、どこかの駅で、あと1時間あるわとかとなったときに、そういうものが目について、ここから5分で行けるんやったらちょっと寄ってみようか。それで、結果的に、そこへちよろっとでもお金を落とすことにもなります。橋本市の場合は、せっかく集客施設で、今、紀望の里にしてもそうですし、くにぎ広場にしてもそうですし、そこそこ人が集まっているという状況なので、そこがお互いリンクできるようなマップを、ぜひもうそろそろ急いでつくっていただきたいなと思うんですけども、そのあたり、やってくれると言うとったけども、いけますよね。

○議長（岡 弘悟君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）壇上でも答弁させていただいたとおり、そういうお話をさせていただいたときながら、いまだに実施できていないのは本当に申しわけないことなんですけども、現在、12月補正で可決いただきました広域連携マップを作成中でございます。そのマップの中で、主要集客施設間の距離とか時間がわかる、そういったマップ等をできるかどうかを検討しておる最中ですので、もう少しお待ちいただきたいと思います。

○議長（岡 弘悟君）11番 田中君。

○11番（田中博晃君）そこから時期も動いているし、次の手段があるよということであればそれでもいいんですけども、やはりやることで人の動きができて、新たにお金が落ちるといいうのも考えられるので、お願いします。

これは、今、向こうでという話もあったんですけども、例えば、私、ずっと今、考えているのが、市長も政策で市民協働というのも訴えられていますけれども、こういったマップも、情報提供して市民から集めてもええんかなど。市民につくってもらうのも一つじゃないかなというふうな考えもあるんですけども、違う答弁やったんですけども、そ

うちの今考えているほうでうまいこといけへんかったときは、そういった技もあるんと違うんかなと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（岡 弘悟君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）現在作成しておる広域連携マップにつきましては、行政間だけの調整で作成しておるのではなくして、当然、関係しておる自治体であったり、観光協会、いろんな団体のご意見を聞きながら作成しております。市民から広くそういったことを募集してはというお話もあるんですが、今、インターカレッジコンペティションで、大学からもいろんな提案をいただいておりますので、そういったことも参考にさせていただいております。

○議長（岡 弘悟君）11番 田中君。

○11番（田中博晃君）その辺もわかっていたので言うてみたというか、そういうのもあるよという提案だと受けとめていただければと思います。

あと、このマップというのも、やはり置く場所というのはすごい大切だと思います。今からつくるので、時期についてはまだ時間がかかるのはわかっておるんですけれども、以前も、市内だけではなくて、例えば、高野山というお話もさせていただきました。それは何でかというたら、そこに人が集まっているから。帰り寄ってくれるんと違うかという考えです。最近はそのようなこともやっていただいておりますし、例えば、夏場やったら、丹生川へ遊びに行った人が、道の駅に寄って帰り、それを見て、風呂に入って帰ろうかという人も出てくるかもしれへん。そういったのもあるんですけれども、市内の集客施設や民間の施設はもちろんのこと、市外にもできた後の配布、広域でつくるとなれば置きやすいと思うんですけれども、そういったことも考えて

いってはもらえないでしょうか。

○議長（岡 弘悟君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）当然、現時点で集客力のある大きな施設については、そこへ積極的に配布していきたいと思っております。それと、やっぱり鉄道、道路、そういったアクセスの拠点となる鉄道駅であったり、道の駅、そういったところにも積極的に配布させていただく予定をしております。

○議長（岡 弘悟君）11番 田中君。

○11番（田中博晃君）市外のところは先方もあることなので、先さんの了承も要ることですけど、そういったところも、橋本市だけじゃなくてよそへ広げることで、まず、こういう橋本市の集客施設をPRできる。その結果、人が来てくれるというのは、一つの手段としては大変有効だと思いますので、よろしく願いいたします。

次は、動画と写真、答弁もほぼ同時やったんで、ほぼ同時に質問というかしますけども、これは私が思っているだけかもしれないんですけども、市長は以前より橋本市を世界中、日本中に売っていくんやというお話をされています。その中で、私はシティセールス推進課は、そのためのほんまの営業の一番の部署やと思うんですけれども、今どうしても既存のイベントとかがようけあって、その事務局的な役割で、言葉は悪いかもしれないですけども、イベント屋になってしまっているのかなというような、私はそういう気がしています。

それやったら、市のPRの動画であったり、写真であったりというのを市民から集めてはどうか。これは29年3月のときにそういう話をさせていただいております。やはり市民目線で集めたほうが、よりおもしろいものが集まると違うんかな。例えば、うちの前の道かもしれない。29年3月で、議長ね、一般質

間でアニメのことをされていましたが、そのときもポストの話がありましたよね。そういうのも、どこかで引かかるかもしれない。市民だからこそおもしろいものを探してくると違うのかなというような気がしています。そういった意味での市民から集める方法、そのやり方とか手法というのはまだいろいろ詰めていかなん部分はあるかと思うんですけども、そういったことをしていったほうが本当の市民協働の一つになると考えておるんです。そのあたり、何か形をちゃんとつくっていけると思うんですけども、いかがですか。

○議長（岡 弘悟君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）壇上でもお話をさせていただきましたとおり、現在、橋本市がインスタグラムでSNSの情報発信をしておるわけなんですけど、写真であったり、動画の収集に関しましても、市民や観光客にこのインスタグラムで、例えば、橋本観光というハッシュタグをつけて、つけてもらって投稿をしていただく。そういうやり方もあろうかと思えます。ハッシュタグを検索することで観光動画集ができたりしていくと思えます。たくさん投稿していただいた中でも、いいねの数が多かったり、人気の高い良い素材があれば、投稿者の了解を得て、そういったものを観光素材として利用できていくのではないかというふうに思えます。

インスタグラムなんかを利用するというのは、行政と投稿者だけと違って、それを見た個人同士でお互いやりとりしながら、それをまた違うところへ投稿していただける、いろんなプロモーションにも使っていただく、そういうことが可能かと思えます。そういう意味からも、市民が自発的に本市の魅力をハッシュタグをつけて投稿してもらうことであったり、観光場所とか名所で共通のハッシュタ

グの投稿を呼びかけていく、そういったことを積極的にやっていきたいというふうに考えております。

先だって、これもインターカレッジコンペティションで1位になった信愛女子短大が、学内にインスタ女子部をつくっていただけることになりました。これはまた18番議員からも多分ご質問をいただけるので、そのときに詳しく説明させていただこうと思っております。そういった若い女性の意見もしっかり取り入れて、発信して行って、そういった動画、写真を取り込んでいきたいなというふうに考えております。

○議長（岡 弘悟君）11番 田中君。

○11番（田中博晃君）今やっているインスタについては、すごくいい試みだと思います。それには何の反対もないんです。ただ、私として思っているのは、やり方の問題なのでいろんな方法論の違いはあるかもしれないんですけども、どうしてもインスタで投稿された写真というのは、その所有権というのは先さんにありますよね。

じゃなくて、私が思っているのは、市がもたらええやん、その写真。例えば、ホームページのどこかから投稿できる箱をつくっておいて、そこに写真を入れてもらう。仮に動画でもいいんですよ。例えば、そのときに肖像権の問題等、人が写っているのはあきませんよとかというルールは要りますけれども、そういうのをまずつくる。そういう素材を橋本市が権利ごともらって、その素材を味つけするのがシティセールス推進課なんかもしれへんし、秘書広報課なんかもしれへんしというところなんです、私の考えは。

ですから、例えば、風景、道とかいろんなやつありますけども、一旦、市のものにもらおうよと。そこから広がるどころ、例えば、たしか前、それこそ29年の3月のときの部長



答弁でも、これは議長のとときの答弁なんですけど、最近はなかなか資金的に厳しいので、ローカルな写真をとってきて、それを背景に生かしているという手法。お金がかからんように、アニメ制作会社はやっているというお話がありました。確かに今、多いです。写真を探している。その写真を探す最初が、ホームページやったりします。で、例えば、花であったり、風景であったりというのは、結構、いろんな自治体がのっけていますが、どうしても通り一辺倒なものになってしまいがちなので、そうじゃないところを集めていくのはどうかというのが私の考えなんです。

きのう、市長、16番議員のとときの最後の答弁でも、今、写真や動画についてはやるように指示を出しているよ、積極的に通り一辺倒なもののはあかん、おもしろいものをとというようなお話をされていましたが、まさにそのとおりだと思うんです。ですから、写真、動画、ルールは別として、そういう集め方をして味つけする。それがシティセールス推進課であり、秘書広報課の仕事だと思うんですけども、それを使いやすいような場所をつくってみませんかという提案なんですけども、いかがですか。

○議長（岡 弘悟君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）昨日、市長のほうからも答弁させていただきましたとおり、ホームページでいろんな動画、写真を募集して、果たしてどれだけ集まるか、またその中からいいものがそろってくるかということを考えると、全国たくさんある自治体の中で、はっきり言ってそんなに大きくない自治体に、どれだけ全国の皆さんが興味を持っていただけるかということを考えると、僕は情報発信の拡散力の高いSNSのInstagramでまず集めて、今、その了解というふうに言っていたんですけど、議員ご存じのとおり、いい

ねをいただいた相手とか、投稿をいただいた相手に、ほぼデータで了解いただけますかという内容でInstagramなんかはいけるようになっておりますので、一々電話したり、郵便で確認したりとか、そういう必要もないですし、まずはInstagramで写真集をつくって、いい素材を整理して、その中で了解をいただいてプロモーションに使っていきける、そういう形を今はつくっていききたいと思っております。

○議長（岡 弘悟君）11番 田中君。

○11番（田中博晃君）その辺は考え方が違うので仕方ないんですけども、私が思っておったのは、例えば、そういう素材の写真なり動画をいただいた。将来、市のPRビデオをつくろうと思ったときに、その素材に味つけをして、それをまず動画で流す。これは以前からずっと言っているんですけども、ストーリー性をつくろうよという話。それをクラウドファンディングにつなげていくというのも一つだと思うんです。そのための材料を集めたい。それがインスタ、それはあります。それ以外にも、インスタをやってない人から集める方法もあるかと違うかということで、今の提案をさせていただいています。

やっぱり何でもそうなんですけど、聖地巡礼ってあるんですよ。以前も、たしか「のんのびより」の話をしたと思うんです。これはかつらぎ町の天野の風景を利用しているアニメです。これでも人は集まっていますし、今、それで検索をかけたら、やっぱり聖地巡礼をした方の写真は載っています。そんなんでもやっぱり人は集まっている。それも道端です、やっぱり。

私自身も個人的な趣味で、それこそゴールデンボンバーの追っかけとかをして、ミュージックビデオの場所を見に行ったりするんですよ、47のおっさんが。でも、現地へ行くで

しょう。私だけじゃないんです。やっぱり来ているんです。だから、そのきっかけになるものを市が持っていたらいいなど。この後、インスタの後に、もしかしたらそういうのを、フリー素材として市が発信できる材料をつくってくれるのかもしれないんですけども、仮にフリー素材をつくって、市内の、例えば、飲食店がメニューに使うよ、それもありやでとかね。そこまでのことができたら広がりってすごい大きいと思うんです。そのあたりはどうでしょう。そういうこともできる方向で考えていけますかね。

○議長（岡 弘悟君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）私が27年度にこういった内容について答弁させていただいた時代は、まさかInstagramとか、ラインアットが、2年後に橋本市が積極的に活用できるとは、正直ここまでとは思っていませんでした。これだけ情報社会が日進月歩で進んでおるということから考えると、これからどういう状況になっていくのかというのは、私自身も想像が付きません。そのときそのときに応じて新しい手法を検討するのは、これは必要だというふうに私は考えております。

○議長（岡 弘悟君）11番 田中君。

○11番（田中博晃君）部長が考えてくれていますが、考えていますと言われても、その答弁はどっちなんやろうと考えてしまうんですよ。部長は考えているけど違うんだどうなんかという、その辺もあるんですけども、確かに今、部長がおっしゃられたとおり、ちょっと前、3年、4年ぐらい前までの議会でツイッターどうこうと言ったら、結構全否定でしたよね、あのころは。

ただ、今は積極的に取り組んでいこうという形になっているのであれば、やはり情報発信、情報収集も積極的にそれらを使ってやる。橋本市がどうしても情報発信力が弱いんであ

れば、ほんまの市民協働だと私は思っておるんです。例えば、さっきのインスタでもいいんですけども、写真を使って市が仮に何かPRのものをつくったとしたら、個人が拡散してくれます。例えば、PR動画を募集して、仮におもしろいのが出て市が採用したと思ったら、個人が拡散するから個人のつながりっていっぱい増えると思うんです。そこに期待するものが非常に大きいと思うので、私はこれを言っているんですけども、これはまだ今からの話なんでどないなるかわからんけど、そういうのも含めて考えていけるのではないのでしょうか。

○議長（岡 弘悟君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）田中議員の質問にお答えをします。

確かに、そのとおりなんです。これから新しい手法というのをいかに取り入れていくかというのが大きな課題なんです。反面、それが市役所でできるかという問題もある。先ほどシティセールス推進課がイベント屋になっている、これも事実なんです。その中で、さらにそれをということができるとかという問題も、実は裏にある。その中で私らが今、考えている、信愛女子短期大学の皆さんの提案もいただいて、そういう新しい情報発信をしていこうという部分をやっているわけで、私たちとしても、あるいは事業者が中心に本当はやるべきことなんです。何で行政がそこまでやるのかという問題もあるんです。

事業者が本来ならば、オムレツでもそうでしょう。オムレツでも事業者がもっと————、このオムレツおいしいよというふうな動画を見せるとか、そういう提案をやったりももっともっていかないかなあかんわけですよ。くにぎ広場もそうです。全然私にとったら不満足で、いつまでやってるんやと、も



やっていますので、今、もちろん職員さんにそれをやってくれと頼むのも難しいかもしれませんが、ただ、もっともっと閲覧数が増えたら、もっと橋本市が注目を浴びると。その結果、もしかしたらそこへ来て写真があった。それを見て映像の製作会社がおもしろいやんという、そのスタートの段階をつくりたいという内容なので、ぜひ、言うている内容は同じやと思いますので、よろしくお願ひします。

それと、この星のやつかって一緒なんですよ。一つのきかけとして、こういうのもありますよ。環境省がやっているのも知っております。橋本市、都会に一番近い田舎で、やっぱり暗いところが多いですよ。マニアというのは、どこへでも行きます。私も星が好きでいろんなところを走り回っています。ですから、これも例え話なんですけれども、嵯峨谷の山村交流センター、もう補助金の枠は外れたと思います。じゃ、将来、地元は泊まるのは嫌やという話は聞いておるんですけども、将来、もしかしたら宿泊施設になるのかもしれない。例えば、やどりなんかでも、暗くてええところやと思うんですよ。そういうのもあるよという発信をしていけたらな。

でも、それを市の方に夜の写真をとってきてと言えへんから、そこで、2、3に絡んで、市民からこういうのを集めてはどうですかというところなんですけれども、一応、確認で、山村交流センター、地元同意のことはわかっています。ただ、補助金の枠は外れたので、仮に星空のときに、将来、宿泊としても可能性はあるのはあるんですよ。

○議長（岡 弘悟君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）嵯峨谷の山村体験交流促進センターにつきましては、建ててから10年経過しておりますので、今、何に使ってもいいという、そういうわけにはいか

んですが、目的を逸脱しない、地域の森林景観を活用して林業体験等を通して、都市との交流を促す。そういう目的であれば、特に縛りはありません。

そういう状況の中で、ただ、宿泊施設となると、少しの条件がやっぱり必要になってきます。ちゃんとした宿泊所とすれば、なかなか消防法の関係とかいろんな法的な問題があるんですが、例えば、簡易宿泊所というようなそういう形にすれば、大きな施設の投資するような整備は必要なかろうかと思ひます。ただ、シャワー室を条件に応じたような形のお風呂にするか、拡張していく必要があろうかと思ひます。

これは簡易宿泊施設というのは、誰でも泊まったらいい、不特定多数の人に泊まっていたでもいいというものではなくして、きっちりした相手を決める必要があります。例えば、学校の合宿であったり、スポーツの合宿であったり、そういう目的の宿泊施設であれば、比較的法的な問題についてもクリアできようかと思ひております。

○議長（岡 弘悟君）11番 田中君。

○11番（田中博晃君）これも例え話やったんであれなんですけど、将来できるんかなど。そうなったときに、実際、私もよく星を見に行きますけれども、例えば、高野口やったら、庚申山に行ったりですとか、橋本市やったらくにぎ広場の周辺に行ったりとかしても、結構、やっぱり見に来る人っているんですよ。九度山やったら、あまびきさんの下の展望台付近はかなりの人がいてますし、そういうのって、夜のことなのでお金が落ちるかどうか、また、人が来ることでやかましいやんとかという話も、そういうのも反面、危険性はあるんですけども、ただ、大阪からすごい近い田舎よな、暗いよな、ここということで、もしかしたら将来、人を集める一つの材料に

なるかもしれない。

答弁でも、いろいろなことを研究してくれるということだったのでそれで結構なんですけれども、やはりそういったのも使えていけたら、もっともっと橋本市って外へ広がっていけるんじゃないかというような思いです。

これで終わります。

○議長（岡 弘悟君）11番 田中君の一般質問は終わりました。

○20番（辻本 勉君）先ほどの市長の答弁、ちょっと不適切な答弁があったと思うんです。

あれについてはぜひとも、議事録に載るとあれなんで、できたら訂正をしていただければいいと思うんです。

○議長（岡 弘悟君）先ほどの市長の発言の件に関して、一部を削除してもよろしいでしょうか。ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岡 弘悟君）この際、午後2時50分まで休憩いたします。

（午後2時33分 休憩）